

仲間と声をかけ合い励む

町内の高齢者宅で除雪作業

【美深】美深高等養護学校（大泉真哉校長）の2年生30人は、21日から23日まで町内の高齢者宅で除雪作業を実施。生徒たちは互いに協力しながら作業に励み、住民たちから喜ばれた。

民に貢献できる取り組みの場とすることを狙いとしている。

全学科（木工、工業、農業、被服デザイン、食品デザイン）の生徒を対象に、4グループに分かれて除雪作業を実施。3日間で合わせて14戸の高齢者宅を訪れた。

集中作業の一環として、毎年この時期に実施しているもの。社会的な自立に向けて必要な能力や態度の成長を確認し、卒業後の仕事や職場への適応能力を高める。また、地域の一員として普段の学習成果を還元し、地域住

民は天候が良く、気温も例年より高かったため、ジャンパーを脱いで作業する生徒も。互いに協力しながら除雪に汗を流した。

作業終了後には、すっきりとした空間が広がり、住民たちから大いに喜ばれていた。鵜坂幸羽さん（農業科）は「やりがいがあります。仲間と声をかけ合うことを意識しながら頑張りました。大いに協力しながら、除雪作業に励む生徒たち」

なお、1年生も2月18日から20日まで町内の高齢者宅で除雪作業を行うことにしている。

（中村）

